

# 意思決定支援ツール「トーキングマット」記録用紙の開発

○名川 勝 延原稚枝 水島俊彦 本間奈美 於保真理  
 （筑波大学人間系）（筑波大学大学院）（一社）日本意思決定支援ネットワーク（一社）SADO Act（神奈川工科大学）  
 KEY WORDS: 意思決定支援 ・ トーキングマット ・ 記録

## I. 研究目的

「トーキングマット」は、現在、英国圏を中心に多くの国で使用されている意思決定支援ツールである。1998 年に Murphy, J に考案され、20 年以上研究開発が継続されている。Murphy, Cameron, and Boa (2020:4)は、トーキングマットを「コミュニケーションに困難さがある人がより効果的に意思疎通できるよう、見ただけでわかりやすい絵を取り入れたツール」と説明している。名川(2020:146)によれば、トーキングマットは Fig.1 に示すマットに「カードを置いていく人を『考える人』(thinker)といい、カードを手渡していく人を『聞き手』(listener)と呼ぶ。『考える人』は『聞き手』から 1 枚ずつ渡されるカードをマット上におきながらやり取りを深めていく。このやりとりが成立する人であればツールを利用することができる。言葉がなくとも、カードの配置により意思と選好を反映しやすく、コミュニケーションを促進させる」とする。つまり意思決定を支援する際にも有効なツールであると言える。そこで(一社)日本意思決定支援ネットワークはクラウドファンディングを行い、2020 年にトーキングマットのうち「健康とウェルビーイング」セット(日本語版)を制作し、実践が蓄積されつつある(トーキングマット®:商標登録第 6296645 号)。

トーキングマットは、完成した写真(Fig.1)を見せるだけでも、考える人の[思い]を周囲の人に伝えられる。ただし、それぞれのカードに対峙していた時の考える人の態度や、語り等を適切に記録として残す事で、考える人の[思い]の一貫性や揺らぎ・変遷についての、より深い理解が可能となる。その記録を踏まえた支援の見直しは、その人らしい暮らしや人生に近づけようとする試みにもなり得、試みの根拠の提示においても記録は有効である。また、記録は他の支援者に、考える人の意思と選好を伝達する際にも使用でき、考える人自身の価値観に基づく一貫した支援提供を助ける。ただし実践では、記録に費やせる時間は決して多くなく、効率的に記録できるフォーマット開発は喫緊の課題である。

よって本研究は、トーキングマットの記録用紙(試作版)で、適切な記録を効果的に残していく事ができるかどうかを検討することを目的とする。

## II. 方法

1.記録用紙(試作版)作成手続き:Murphy and Cameron (2008), Murphy et al.(2013)、トーキングマット基礎研修資料他を踏まえ、筆頭著者が記録用紙(試作版)を開発した。記録用紙(試作版)は面接記録における基礎的項目と、トーキングマットの 7 原則、並びに Effectiveness Framework of Functional Communication (Murphy et al.,2008)にある項目で構成した。記録用紙(試作版)は基礎研修修了者 3 名が実際にトーキングマットの使用事例を記載した。記載者が記載の過程で感じた課題点について、トレーナー研修修了者 1 名、基礎研修修了者 4 名で検討した。

2.倫理的配慮:日本特殊教育学会倫理綱領並びに倫理規定

を遵守して実施した。

## III. 研究結果

1.記録用紙の概要:記録用紙(試作版)には、Table1 の必須項目 13 項目と、聞く人(支援者)が自己の実践を省察するための 9 項目計 22 項目をあげた。

2.所要時間:所要時間は、記録用紙記入者から必須記入項目のみ(項目 12 を簡略化して記入)の場合は約 10-15 分。後半の項目まで記入する場合、約 30-40 分かかったと申告された。

3)追加を求められた項目:開始前の「考える人」に対するトーキングマットの説明、総括所見の項目。

4)記録用紙記入者の主たる意見:①記録用紙を書いた後に関係者とやりとりをすることで、次のセッションで役立てられる。②1-13 までの概要を、本人を取り巻く関係者に共有することで、考える人の選好を伝える事ができる。③最初から 24 項目埋めることは大変かもしれない。13 項目のみ埋め、残り 9 項目はトーキングマットレナー等のスーパーヴァイズの際に一緒に振り返れるとより学びが深まる。④考える人のカードを置く際の言動を必要に応じて細部まで記載するために、項目 13 をフレキシブルに記載できる形態にしておいてはどうか、という意見があった。

5)修正した記録用紙:結果 1)~4)の意見に基づき記録用紙(修正版)を作成し、基礎研修修了者 1 名が対象者に許可を得て撮影した動画をもとに記録作成を実施したところ、1~13 の必須項目を要点のみ記載した場合は 15 分、全項目についての詳細な記載を実施した場合は 40 分で記載を完了できた。詳細な記録まで求めなければ実践現場で活用できそうであること、記録を共有し対象者の家族とのコミュニケーションに使用できている等の意見があった。記録用紙(修正版)は検討に参加した全員に了解が得られた。

## IV. 考察

当初予定していた目的は、結果 5)で示したとおり概ね達成し得たと考えられる。記録用紙(修正版)を、トーキングマット基礎研修修了者が参加する「実践のひろば」等で、今後使用していく中で、より改良を加えていく予定である。

【引用参考文献】[1] Murphy, J., and Cameron, L (2008) The effectiveness of Talking Mats with people with intellectual disability, *British Journal of Learning Disabilities*, 36, 232-241. [2] Murphy, J., Cameron, L. and Boa, S. (2013) *Talking Mats Third Edition*. Talking Mats Ltd. 名川勝・水島俊彦監修、小杉弘子翻訳 (2020) *Talking Mats コミュニケーションを深めるツール*.SDM-Japan. [3] 名川勝(2020)意思決定支援のツール開発.日本発達障害連盟(編), 発達障害白書 2021 年版. 明石書店, 146. (NAGAWA Masaru, NOBUHARA Wakae, MIZUSHIMA Toshihiko, HONMA Nami, OHO Mari)

(本研究の一部は日本財団の助成により行われた)

Table 1 記録する項目(必須)

1 日時・場所
2 考える人、聞き手の氏名
3 考える人の年齢、機能障害、居住状況
4 トーキングマットを行おうとしたきっかけ
5 トーキングマット使用目的
6 環境設定(事前に気を付けたこと)
7 トピック、トピックスケール
8 使用したオプションカードとその順番
9 ブランクカードの使用
10 カードの位置の変更
11 所要時間
12 対話ややり取りの記録
13 結果の写真、結果を伝えたい人



Fig.1 トーキングマット®(例)